

### オリンピック関連施設の紹介

#### 1. はじめに

ロンドンオリンピックでは、メイスタジアム（陸上競技）やアクオティックセンター（競泳）、そして選手村を含むオリンピックパークが建設されますが、このような新しい競技施設だけでなく、伝統の国・英国ならではの歴史や由緒ある建物がオリンピック会場として利用されます。

#### 2. ローズクリケット場

アーチェリーの競技会場となるローズクリケット場は、1814年に建設されたクリケット専用会場で（その後、増改築され現在に至る）イングランド代表戦をはじめとする国際大会や国内プロリーグの試合が行われ、「クリケットの聖地」と称されます。クリケットの中央競技団

体であるイングランド・ウェールズ・Wales Cricket Board）本部もここに位置します。

日本ではなじみの薄いクリケットですが、英国をはじめとするコモンウェルス（英国連邦）の国々では絶大な人気を誇り、その発祥の地である英国のこの会場でプレーすることが一つのステータスと考えられています。

芝生のグラウンド内に、仮設のアーチェリー競技会場が設置され、荘厳なたたずまいのパビリオンと緑の芝生とのコントラストが競技へのアクセントとなるのではないのでしょうか。


なお、NAASHロンドン事務所の開所式をこの会場で行いましたので、NAASHにとっても歴史的な会場と言えるでしょう。

#### 3. イートンドーニー

カヌー・スプリント及びボートの競技会場となるイートンドーニーは英国一の進学校として著名なイートン校のボート部が管理・所有する特設のボート会場です。

イートン校の歴史は古く、1440年に創設されて以来18名の英国首相を輩出しています。

そのボート部では、テムズ川の激しい流れの中ではなく、静かな波の中で練習できる環境を必要として、1996年に建設を開始し、2006

名称	Eton Dorney
写真	
施設形態	ボート会場
開催競技	カヌー・スプリント、ボート

年にこの会場を完成させました（イートン校、UK Sport、Sport England及び国からの共同出資）。普段はイートン校ボート部の練習・試合会場として利用されていますが、オリンピック期間中は、競技会場として利用され、観戦客のために仮設の観客席を設置します。

英国らしいのどかな雰囲気の中にも、イートン校の伝統が感じられる会場で熱い戦いが繰り広げられます。なお、オリンピックパークにある選手村から離れているため、近郊のロイヤル・ホロウェイ大学に選手村（分村）が別途設置されます。

#### 4. ホースガーズパレード

英国では「馬」が警備の象徴として位置づけられており、スポーツ会場の周りでも騎馬隊が警備に目を光らせている光景がよく見られます。

ホースガーズは、1753年に建設され、ホワイトホール（英国省庁

が立ち並ぶ道路）やダウニングストリート（首相官邸）といった英国政治の中枢地域に位置します。現在は王立騎兵隊の本部として利用されている由緒ある建物です。その建物に隣接するようにパレード（騎兵隊行進のための広場）が隣接し、その広場にビーチバレー会場が設置されます。

ホースガーズは、観光地としても有名で、ビックベンやロンドンアイ、そしてウェストミンスター寺院からのアクセスマも良く、観光名所の一つです。

威厳ある建物に囲まれ行われるビーチバレーは、古いものと新しいものの融合とも呼べるのではないのでしょうか。

名称	Lord's Cricket Ground
写真	
施設形態	クリケット場
開催競技	アーチェリー競技

名称	Horse Guards Parade
写真	
施設形態	騎兵隊行進広場
開催競技	ビーチバレー